

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、考え、行動し、主体的に生きる生徒の育成～						
重点目標		(1) 進んで学習に励む生徒の育成 (2) 授業や行事、部活動に活力を持って取り組む生徒の育成 (3) 将来の夢や目標を抱き、その実現に向けて挑戦する生徒の育成 (4) 自尊感情と他者への思いやりの心、誠実さを持つ生徒の育成 (5) 規範意識や基本的生活習慣が身についた生徒の育成						
主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰ひとり取り残さない取り組み ③学校・家庭・地域の連携	・基礎的、基本的な知識、技能を習得させる。 ・授業力の向上と授業改善を目指した校内委員会を実施する。 ・全国学力学習状況調査等の資料を活用する。 ・小中連携を推進する。	・全教員が指導案を作成し、生徒が主体的に学ぶ場を設定した公開授業を行う。 ・小テストやドリル学習などを繰り返し行い、基礎学力の定着に努めて、よりわかりやすい授業を展開する。 ・週末課題を事前に知らせることで、計画的に家庭学習に取り組む習慣を身につけさせる。 ・学力保障の場として、学習優先の日を設定する。 ・全国学力学習状況調査の分析結果を小学校に提供する。 ・校区内の小学校の授業を参観する。	・生徒アンケートにおいて、「授業では学習内容が理解できて楽しい」と回答する割合を80%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「自分は授業で積極的に発表しようとしている」と回答する割合を70%以上にする。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は学力の向上に取り組んでいる」と回答する割合を90%以上にする。	C	・生徒アンケートにおいて、「授業では学習内容が理解できて楽しい」と回答する割合は72.6%と目標を下回った。 ・生徒アンケートにおいて、「自分は授業で積極的に発表しようとしている」と回答する割合は42.3%と目標を大きく下回った。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は学力の向上に取り組んでいる」と回答する割合は92.6%と目標を達成した。 ・教師アンケートにおいて、「生徒の視点に立った、わかりやすい授業づくりに努めている」と回答した割合はほぼ100%で、教師側の取り組みと生徒の感じている実態とにギャップがあることが課題である。 ・全国学力学習状況調査で、各教科とも全国平均を上回った。	・小テストやドリル学習などを繰り返し行うといった、基礎学力の定着や、わかりやすい授業を展開することは継続するとともに、ICTの活用や生徒が主体的に活動する場面設定を意識的に授業の中に取り入れる。 ・スピーチや発表する力などの表現力やアウトプット力を高める取り組みを行うなど授業改善を行う。	・学習指導要領が求める資質・能力で基礎的「知識・技能」は十分に備わっているが、「思考・判断・表現」に関しては一層の発展が求められる。 ・教員の授業改善のもと、教え込みから、生徒が主体的になる授業づくりが必要である。 ・教育課程全体で、主体的に活動する生徒の育成は、ある程度達成しているが、今後の発展が求められる。 ・主体的に学ぶ場の具体的な取り組みが見えない。繰り返し学習を強くしすぎると、主体的な取り組みが弱くなる。主体的な取り組みを促す方を整える。 ・生徒アンケートにおいて、「授業では学習内容が理解できて楽しい」について理解できると楽しいは別ではないか、苦手でも取り組むことが大事。 ・生徒の興味を引きつける様々な仕掛けを取り入れ。 ・今後に期待する。
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・学習の手引き等を活用し、適切に評価を行う。 ・タブレットなどICT機器を適切に使用する。 ・読書活動を充実させ、語彙力を向上させる。	・授業の中でスクールタクトを使って、表現する機会を積極的に作る。 ・タブレット（スクールタクトなど）を使った表現も、発表と同様表現力につながることを、学習の手引きや授業の中で、生徒に周知する。 ・情報担当から、ICT機器の研修を行い、教師がICT機器を積極的に使えるように促す。	・教師評価の「ICT機器を積極的に活用した授業づくりに努めている」の評価を90%にする。 ・生徒評価の「様々な場面を通して、表現力を高める機会をつくっている。」の評価を90%にする。	B	・授業の中でタブレットなどを使用することで、授業がわかりやすくなったという生徒が85%いる。引き続き授業内でタブレットを積極的に活用し、研修等を通して、活用事例の共有を行う。 ・今年度は87%の生徒が、様々な場面で表現力を高める機会があるとしている（前年度93%）。ICT機器を通して、さらに表現力を高める機会を設ける必要がある。	・デジタル採点を採用し、子供たちの点数のデータ分析を分析し、苦手分野に絞った授業づくりにつなげる。また、採点業務の効率化を目指すし、教員の負担軽減を図る。 ・ICT機器機器の研修や、研究授業を通じてタブレットの使用事例を共有する機会を積極的につくる。	・タブレットは道具として利活用できている。ただ、授業方法として、創造性や豊かな発想を育む指導には、今後の改善が求められる。 ・タブレットの使用法を共有する研修会は大切。 ・視覚に訴えるだけでなく。聴覚も刺激するような活用が大事。 ・引き続き楽しい授業に期待する。
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめとの未然防止、早期発見、早期対応に向けての取り組み ③不登校の児童生徒やその保護屋への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	・いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 ・生徒との信頼関係を構築し、充実した学級経営を行う。 ・不登校、長欠生徒に対して、学校全体で組織的な対応を行う。 ・体育大会や文化祭、トライやる・ウィーク等の行事において、生徒に自信をつけさせる有効な機会として計画立案を行う。	・自己有用感や自己肯定感、自尊感情を高められるような取り組みを授業で実践するとともに、継続していじめに関する授業を道徳科で行う。 ・毎学期、教育相談週間を設け、生徒の声に耳を傾けたり、学校生活アンケート、いじめ調査アンケートを行ったりして、早期発見ができるように実態把握を行う。 ・報告、連絡、相談体制を確立し、早期対応ができるように組織的に動く。 ・生徒指導委員会（週に1回）やいじめ防止対策委員会（学期に1回）や不登校対策委員会（月に1回）を必ず実施し、情報共有を行う。 ・行事検討委員会、体育大会実行委員会、文化祭実行委員会、トライやる推進委員会を実施し、生徒主体となる活動計画を立案する。	・「自分を大切にすることや、他の人への思いやり、いじめを許さないことについて教えてもらっている」という生徒の割合を95%以上にする。 ・「学校へ行くのが楽しい」という生徒の割合を85%以上にする。 ・「先生は悩みや不安なことについて相談にのってくれる」という生徒の割合を85%以上にする。 ・「学校行事に取り組み、達成感を感じることができた」という生徒の割合を90%以上にする。	C	・「自分を大切にすることや、他の人への思いやり、いじめを許さないことについて教えてもらっている」という生徒の割合が96%となり、目標を達成した。 ・「学校へ行くのが楽しい」という生徒の割合が 79%となり、目標を下回った。 ・「先生は悩みや不安なことについて相談にのってくれる」という生徒の割合が82%となり、若干ではあるが目標を下回った。 ・「学校行事に取り組み、達成感を感じることができた」という生徒の割合が90%となり、目標を達成した。 以上の結果より、一定の指導の効果を得ることができたが、職員と生徒との関係に課題がある。生徒一人ひとりの対応について考え、丁寧に関わっていく必要がある。	・現在の取り組みを継続し、いじめに関する授業を道徳科を中心に、学校全体で行っていく。 ・職員間で報告、連絡、相談体制を強化し、SSWやSCだけでなく、外部の関係機関とも連携して生徒一人ひとりの対応について考えていく。 ・学校生活アンケート、いじめ調査アンケートの実施後、迅速に聞き取りを行い、早期発見、早期対応に努める。 ・生徒指導委員会(週1回)や不登校対策委員会(月1回)、いじめ防止対策委員会(学期1回)で情報交換を密に行い、未然防止、早期発見、早期対応に努める。 ・生徒会担当や行事担当、体育大会や文化祭の実行委員会と連携し、日々の学校生活において生徒が主体となって活動できる場を増やす。	・教員と生徒の関係はよく、人間性を育む環境や指導は十分実施されている。本校の取り組みが成果として表れている。 ・今後、新たな発想やユニークな取り組みが求められる。より、教師と生徒の関係作りに力を入れる必要がある。 ・今後の課題として、迫力ある魅力ある型破りな生徒の育成が求められる。 ・生徒の意欲に関係がある自己肯定感や自尊感情が「C」なのが心配である。各項目の改善策の徹底を望む。 ・質問を細分化することで、もっと細かく見えてくることがある。 ・引き続き、各項目への対応に期待する。 ・「迅速に聞き取る」とは具体的にどのような取り組みを見直す必要がある。

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、考え、行動し、主体的に生きる生徒の育成～						
重点目標		(1) 進んで学習に励む生徒の育成 (2) 授業や行事、部活動に活力を持って取り組む生徒の育成 (3) 将来の夢や目標を抱き、その実現に向けて挑戦する生徒の育成 (4) 自尊感情と他者への思いやりの心、誠実さを持つ生徒の育成 (5) 規範意識や基本的生活習慣が身についた生徒の育成						
主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校 教育	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の促進	・部活動のあり方を検討するとともに、指導の創意工夫及び改善に取り組む。 ・体育の授業を通して、運動やスポーツの習慣化及び体力テスト種目の知識と技術を習得させる。 ・健全な食育を推進する。	・部活動についてのアンケート項目を増やし、保護者と生徒の部活動に対する考えを把握する。 ・保健だよりを活用し、健康の保持増進に感心を持たせる。 ・委員会活動等を活用し、規則正しい生活についての啓発を行う。 ・保健体育の授業で毎時間補強運動、柔軟を実施し、体力の向上と怪我防止につなげる。 ・スポーツテスト、タイムトライアルの成績上位者の掲示を行い、意欲向上につなげる。	・部活動についてのアンケート項目を増やす。 ・保護者及び生徒における保健だよりの認識を85%以上に維持する。 ・生徒の「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がける」の割合を85%以上にする。 ・スポーツテストの伊丹市の目標指数を昨年より更に上回るために体育の授業や課題活動を計画的に進める。 ・熱中症対策について、授業及び部活動で呼びかける。	B	・年度途中に部活動についてのアンケートを実施できなかったため、保護者と生徒の部活動に対する考えを把握できなかった。 ・保健だよりの認識について、保護者が97.4%、生徒が93.9%であった。 ・生徒の「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がける」の割合が84.8%であったため、目標には0.2%及ばなかった。 ・全国体力調査において、昨年度より向上している学年が多く、総合的に全国平均よりも上回った。 ・WBGT計を活用し、熱中症の危険性について、常に意識していた。必要に応じて活動内容を変更した。	・部活動についてのアンケート項目を増やし、保護者と生徒の部活動に対する考えを把握する。 ・保健だよりの認識について、今後とも継続して90%以上を維持していきたい。 ・「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がける」の割合を向上させるために、家庭と学校が協力して規則正しい生活ができるように、三者懇談等で促していく。 ・体力テストについて、体育の授業や課題活動を計画的に進め、今後とも継続して向上できるように努めたい。 ・引き続きWBGT計を活用し、熱中症予防に努めていく。	・概観する限り、体育的行事や日々の実践から概ね良好と思われる。 ・現在の取り組みを継続してほしい。 ・携帯電話・スマートフォンの使用ルールを生徒会や道徳の授業で考え、早寝早起への問題意識を持たせる。 ・保健だよりは、その時期に合った大事なポイントをわかりやすく表現してあるので、保護者が見てこどもとのコミュニケーション作りにもなり、とても良い。
	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	・キャリアパスポートなどを積極的に活用する。 ・個に応じた進路指導を充実させる。 ・SC、SSWなど関係機関と連携を図る。 ・不登校対策委員会の活性化を図る。	・キャリアパスポートを年に3回（年度当初、中間、年度末）記入させ、それを基に生徒への声かけを行う。必要に応じて、伊丹市キャリア学習ノートを活用する。 ・進路に関する情報を生徒や保護者に適宜、発信する。 ・学年に応じた進路学習を行うとともに、三者懇談や教育相談で個の特性を理解した進路指導を行う。 ・不登校や家庭環境などに問題を抱えている場合、生徒を積極的にSC・SSWや関係機関につなぐ。 ・不登校対策委員会を月に1回行い、学校全体で情報共有をする。	・生徒アンケートにおいて、「学校で卒業後の進路について教えてもらっている」と回答する割合を85%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「学校で職業のことや働くことの大変さ、大切さについて教えてもらっている」と回答する割合を90%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「先生に進路のことや学校全般にわたり相談することができる」と回答する割合を80%以上にする。	B	・生徒アンケート「学校で卒業後の進路について教えてもらっている」の割合は、91%に達している。 ・生徒アンケート「学校で職業のことや働くことの大変さ、大切さについて教えてもらっている」の割合は、93%に達している。 ・生徒アンケート「先生に進路のことや学校全般にわたり相談することができる」の割合は、1年生70%、2年生71%、3年生87%、平均76%となった。 ・保護者アンケートでは、進路についての情報発信や相談の機会について学年間の格差が見られた。	・夢をもつことの大切さや、仕事のやりがいについて伝えられるような講演会は現在年間2回程度行っている。今後も継続して行っていく。 ・生徒アンケートで「先生に進路のことや学校全般について相談することができる」と答えた割合は他項と比べて低かったことから、教師側より機会を見つけて声をかけ、進路関係についても情報発信に努める。 ・保護者アンケートで、「学校は進路についての情報を適切に発信している」と答えた割合は学年による差があるため、進路についての有効な情報発信の仕方について研究する。	・アンケート結果から、生徒は学校や教師を信頼していることが、見受けられる。ただ少ない、割合だが否定的な回答をしている生徒も存在しているため、今後の改善が求められる。 ・「成果と課題」を見ると「A」でも良いのではないか。 ・進路についての情報の差は、受取手の姿勢にも左右されるのであまり気にせず、「不満」の有無を聞くのも一つの指標となるのでは。
	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	・入学時の情報の引き継ぎと、教育的ニーズに応じた指導、支援を継続させる。 ・個別の指導計画を作成し、職員間の共通理解を図る ・特別支援教育推進委員会の活性化を図る。	・小中連絡会の活用を通して、小学校との情報交換を密に行う。場合によっては事前に保護者と協議する。 ・サポートファイルを利用しながら、個別の指導計画を作成し、職員間の共通理解を図る。支援員との連携を深めるため、特別支援の各学年担当が積極的に啓発を行う。 ・特別支援教育推進委員会を月1回開催し、情報交換や実態把握に努める。	・職員アンケートでは支援員との連携が90%以上がとれていると回答しているが、各学年担当の更なる啓発により「よく当てはまる」の割合をまずは40%に上げる。 ・サポートファルの活用も95%程度なされている回答であったが、各学年担当の更なる啓発により「まったくあてはまらない」の割合を0%に近づけたい。 ・特別支援教育推進委員会の開催方法について検討する。	B	・小中連絡会、保護者との情報交換を密に行うことができた。 ・サポートファイル・個別の指導計・支援員との連携を特別支援の各学年担当が積極的に啓発を行うことができた。職員の情報の活用が不十分であった。 ・情報交換や実態把握を充実させることができたが、いずれにせよタイムリーな情報交換・実態把握ができていないことと、「報告」の形のみの情報交換が多かったことが大きな課題であるといえる。 ・職員アンケートでは支援員との連携は97%以上がとれていると回答しているが、よく当てはまるの項目では31%にとどまった。 ・サポートファイルの活用については「当てはまらない」の割合が0%になった。	・引き続き支援員との連携を深め、サポートファイルの活用も同様に進めていく。 ・実態把握や情報交換後の「見解」や「方針」を共有していく機会を増やしていくべきである。専門的な見地からのアドバイスを取り入れることや、行政の動きや情報もとりいれ、先を見越した支援を一層進めていく。 ・次年度に向けては「特別支援教育係」としてコーディネータ、各学年1・支援学級1（各学年と重複可）・生徒指導担当・支援員・管理職で係会を週1回、時間割に入れて開催するよう提案・要望する。	・ある学級で、支援を必要とする生徒が学んでいる姿を観察したがね周りの生徒の温かい対応、接し方が見られた。本校の教育の成果が見られた。 ・個別指導、情報交換等はよくできているのは良いが、その情報の活用が最も大切である。情報の活用について重点的に取り組んでほしい。 ・「よくあてはまる」を向上させるより、「まったくあてはまらない」をゼロにする方がよい。 ・「報告」の形のみの情報交換が課題、報告された情報の中から、次に活かして行くことを考える。

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、考え、行動し、主体的に生きる生徒の育成～						
重点目標		(1) 進んで学習に励む生徒の育成 (2) 授業や行事、部活動に活力を持って取り組む生徒の育成 (3) 将来の夢や目標を抱き、その実現に向けて挑戦する生徒の育成 (4) 自尊感情と他者への思いやりの心、誠実さを持つ生徒の育成 (5) 規範意識や基本的生活習慣が身についた生徒の育成						
主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
	教職員の資質向上 ①研修等の充実	・積極的な研修参加による資質向上を目指す。 ・生徒の実態を踏まえ授業改善をはかる。 ・主体的に考え、課題解決を図る実践的な学習活動などを実施する。	・公開授業を必ず行う。 ・空きコマの先生は必ず公開授業を参観する。 ・公開授業参観の際、参観シートを活用し、授業改善につなげる。 ・本時の目標や、本時の振り返りを徹底する。	・生徒アンケートの「先生はわかりやすくするために教え方を工夫している。」について、よくあてはまるを60%以上にする。 ・「先生は、シラバスを活用するなど、事前に評価の仕方を説明し、学習の成果を適切に評価している。」について、よくあてはまる・ややあてはまるの割合が90%以上を維持する。 ・保護者アンケートの「先生は学習の成果を適切に評価している。」について、よくあてはまる・ややあてはまるの割合が90%以上を維持する。 ・教師アンケートの「校内授業研究会など研修に積極的に参加するなど、授業方法について検討している。」について、よくあてはまる・ややあてはまるの割合が90%をこえることを目指す。	C	・生徒アンケートの「先生はわかりやすくするために教え方を工夫している。」について、よくあてはまるの割合が51%で目標から9%届かなかった。 ・「先生は、シラバスを活用するなど、事前の評価の仕方を説明し、学習の成果を適切に評価している。」について、よくあてはまる・ややあてはまるの割合が93%で、目標数値に到達することができた。 ・保護者アンケートの「先生は学習の成果を適切に評価している。」についてよくあてはまる・ややあてはまるの割合が91%と目標の数値を上回ることができた。 ・教師アンケートの「校内授業研究会など研修に積極的に参加するなど、授業方法について検討している。」について、よくあてはまる・ややあてはまるの割合が85%と目標の数値を上回ることができなかった。	・長期休暇を活用し、研修の充実を図る。 ・シラバスを活用し、生徒・保護者ともに、学習内容や評価について理解が得られるように努める。 ・公開授業を行い、参観シートを活用し、他教科からの視点をふまえ、授業力向上及び授業改善に努める。 ・引き続き授業内で本時の目標の提示、本時の振り返り時間の確保を行い、生徒の理解が深まるように創意工夫する。 ・他校との交流を深め、授業改善について共同で研究を行う。	・アンケートの回答から概ね、授業は成立していることがうかがえる。研修に関しても授業研究会で活発に取り組まれ、教員の意識も高い。求める理想へ一層の努力が期待される。 ・本時の目標の提示や、振り返りについての成果と課題が具体的にみえてこない。具体的な手立てを考えるべき。 ・教師がたくさん研修をしていることを保護者は知らないの、公開授業も保護者が見れる様にするなど、オープンスクールなど、保護者が授業を見れる機会を増やすべき。 ・西中学校の教師の「顔」が見えないのは少し残念である。 ・改善策から教師自身の資質能力の向上につながる取り組みだとわかる。
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	・定期的に情報発信や意見交換を行うなど、CS委員やPTA等と連携を図る。 ・オープンスクールやホームページ等を通して、保護者や地域に教育活動を公開するなど、開かれた学校づくりに努める。	・学校通信、学年通信の内容をより魅力的なものにし、発行を積極的に行う。 ・ホームページで生徒の様子がリアルタイムでわかるように更新をこまめに行う。 ・ホームページの項目をわかりやすいように整理し、見やすいレイアウトに改善する。 ・緊急時の連絡をホームページとGoogle Classroomを使って発信する。 ・オープンスクール等でPTAや地域の方々と教職員をお互いに顔を合わせる機会を増やし、情報を密に交流する。	・情報発信を継続する。学校通信や学年通信などをよく読んでいる家庭90%以上、時々ホームページにアクセスする家庭60%以上を目標にする。 ・Google Mail の登録者数を増やす。 ・「学校は保護者の願いに応えている」という項目が90%以上になることを目標にする。	B	・「学校だよりや学年だよりやホームページを通じて学校の情報を保護者に伝えている」の項目は95.3%、「家では、時々学校のホームページを見ている」の項目は45.6%であった。 ・様々な連絡を、GoogleFormやGoogleClassroomを使って配信した。 ・「学校は保護者の願いに応えている」の項目は87.3%であった。	・ホームページの更新をこまめに行い、閲覧数が増えるように呼びかける。 ・アンケートに、「学校のホームページを見ている」の項目を検討し、「GoogleFormやGoogleClassroomを確認している」という項目を加える。	・状況としては概ね良好、一層の地域との関係づくりが求められる。 ・この項目は「A」評価でも良いと思う。 ・更新をこまめにしていると保護者はよく見るので、行事では特に力を入れる方が良い。 ・引き続き「アピール力」の向上を期待する。ホームページは在校生がいない地域の方にも学校の現状を伝えるツールとして活用して欲しい。
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	・各教科や体験活動等を通して災害から生命を守るため、主体的に行動する力を育成する。 ・感染症予防のための指導を徹底する。 ・地域、警察、関係機関と連携した学校安全の取り組みを充実させる。	・授業の中で災害について学ぶ機会を作り、主体的で深い学びを取り入れる。 ・普段の生活から社会や校内のルールを明確化し生徒たちが意識しやすいようにする。 ・感染症予防について声かけをする。また、保健だよりや保健の授業を活用し自ら必要に応じて判断できるようにする。 ・学校だより、学年だよりの発行やホームページの更新を積極的に行う。 ・地域の方に土曜学習や放課後学習などへの協力者登録を進める。 ・その都度連絡を取り合いトラブルの未然防止に繋げる。	・前年度よりも低かった「学校で社会のきまりやマナーについて教えてもらっている」の評価を95%以上にする。 ・保護者の「学校は交通ルールやマナーを守るなどの指導に努めている」の評価を95%以上にする。 ・教師の「問題行動が起きたとき、組織的かつ迅速に対応できる体制が整っている」の評価を95%以上にする。	C	「学校では社会の決まりやマナーについて教えてもらっている」は生徒の96%が「教えてもらっている」と答えており、目標を達成している。保護者の「学校は交通ルールやマナーを守るなどの指導に努めている」の評価は91%と目標を下回っている。教師の「問題行動が起きたとき、組織的かつ迅速に対応できる体制が整っている」の評価が88.6%と目標の95%を下回っている。課題として危機意識の背景にあることから（例えば、情報交換の頻度や連絡や報告の密度など）を深く掘り下げ、職員個人の意識だけでなく、校内組織としての仕組みを考えていく。	・ホームページや学校だよりで、交通ルールに関する啓発事項を発信し、生徒への指導内容が保護者にも伝わるように工夫する。 ・職員間での報告・連絡・相談の徹底や、対応策を共有する等、問題行動があった場合迅速に対応できる体制を構築する。	・改善策として、具体的な校内組織の仕組みづくりや体制を明確にする必要がある。 ・日頃の態度や姿勢、人間関係づくりが重要「そう思うが、できていない」とならないようにする。 ・知っていることを実行することが大切。

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、考え、行動し、主体的に生きる生徒の育成～							
重点目標		(１) 進んで学習に励む生徒の育成							